

平成30年度第2回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成31年2月15日(金) 15:30~16:20

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会

4 知事挨拶

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に多大な御尽力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、本日は、大変お忙しい中お集まりをいただき、誠にありがとうございます。

まず、平成28年7月に県立高校2年の男子生徒が自死した事案について、今日5日、山口県いじめ調査検証委員会において調査結果が取りまとめられ、報告を受けたところである。

私としては、二度とこのような痛ましい事案がおこることのないよう、教育委員会とも連携しながら、再発防止に向けた取組を進めていかなければならないと考えている。

次に、来年度の取組について、9月に開催した前回の会議では、今後5年間にわたる本県教育の総合的な施策の方針である「教育大綱」及び平成31年度の「重点取組方針」について審議いただき、皆様から貴重な御意見をいただいた。

今年は、平成の次の、新たな時代がスタートする年であり、将来にわたって活力ある山口県を創り、切り拓いていく人を育てる教育・人づくりは極めて重要であると考えている。

これらを踏まえ、私は、来年度の当初予算編成を通じ、施策の充実や新たな取組の検討を重ね、来年度予算案に盛り込んだところである。

詳細は後ほど事務局から説明させるので、委員の皆様におかれては、幅広い見地から忌憚のない御意見・御提案を賜るようお願いして、私の開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

5 議事概要(議事進行:知事)

※委員発言:● 事務局説明等:○

(1) いじめに係る重大事態に関する調査の結果について

●村岡知事

今回の事案を踏まえ、「いじめ調査検証委員会」からは、様々な提言をいただいている。私としては、いじめ防止対策等の徹底を図って、二度とこのような痛ましい事案が起こることのないよう、全力で、再発防止策に取り組んでいく必要があると考えている。

特に、各学校に設置されている「いじめ対策委員会」を十分機能をさせるなど、学校としていじめに対処していくための体制を実効あるものとするとともに、その下で、生徒や教職員がいじめに対する認識を深め、感度を高めて行動すること、さらには、生徒が悩みを打ち明けやすくなるよう、これを受け止める相談体制についても充実を図っていくことが必要だと考えている。

今回の事案で確認できた当該生徒を巡る出来事は、決して、当該高校に限ったものではなく、どの学校でも日常的に起こりうるものだと思う。教育委員会におかれては、今回の調査結果や提言の趣旨を、生徒や教職員の皆さんに分かりやすく、そしてしっかりと伝え

ていただきたいと思う。

こうしたことを踏まえ、いじめの防止に向け、未然防止・早期発見・早期対応、そのための具体的な取組を、教育委員会において、しっかりと進めていただくようお願いする。

●浅原教育長

まず、改めて、亡くなられた御本人の御冥福をお祈りするとともに、御遺族の皆様から心からお悔やみを申し上げる。

また、生徒の自死を防ぐことができなかつたことについて、改めて心からお詫びを申し上げたいと思う。

ただいま知事から、教育委員会に対して、今後取り組んでいくべき視点や方向についてお話をいただいた。

県教委としては、まず始めに、いじめに対する教職員ひとりひとりの理解をしっかりと深め、再発防止を図るため、既に、この報告書の内容につきまして公立学校の全教職員に周知を図ったところである。

また、各学校に設置する「いじめ対策委員会」がしっかりと機能し、いじめの防止等に必要な組織としての情報共有などが十分に図られるよう、学校側の体制の検証や見直しも早急に進めてまいりたいと考えている。

さらに、来年度の事業において取り組む、SNS等を活用した相談体制の整備や、教職員研修の充実など各種事業をしっかりと活用し、いじめ等の根絶に向けた取り組みを着実に進めていくこととしている。

その他、報告書でいただいた数多くの提言や先ほど教育委員会会議で各委員からいただいた意見を十分に踏まえ、こうした痛ましい事案が二度と起こらないよう、全力で取り組む所存である。どうかよろしく願います。

●村岡知事

よろしく願います。

(2) 平成31年度の重点的な取組について

○事務局から資料2に沿って説明

●宮部委員

31年度の重点的な取組ということで、感じたのは、人材育成ということにずいぶん軸足を置かれて取り組まれているということに関し、感謝を申し上げます。私の方からは、若者の県内定着ということで述べてみたいと思う。

今も説明があったが、ずいぶん高校生、そして地元の大学生に対して、地域の企業を理解してもらおうということに積極的に予算措置がされていることについて、感謝申し上げたいと思う。

それと、コミュニティ・スクールが高校まで導入されるという中で、地元企業とコンソーシアムを創設して地域の課題を解決するという取組もあるが、こうしたことを含めて、イン

ターンシップなど子どもたちのキャリア教育が進んで、理解が深まるのではないかと思っている。

これは高校、大学の話だが、実は小学生、中学生の職場訪問などがいろいろと実施されている中で、最近聞いた話だが、各中学校で取り組んでおられる「立志式」での生徒の作文で、就職など自分の将来について考える上で、非常にためになったと書かれている例が多くあると聞いており、小学校、中学校での職場見学や体験が、結構「将来」に向かって結びついていると感じている。

「三つ子の魂百まで」と言われるが、やはりいろんなことを見て、体験しながら自分の将来について考えるということでは、キャリア教育、インターンシップを小学生の頃から高校生までしっかり進めていただきたいと思う。

また、普通科の高校生は、県外の大学に多く進学しており、文系・理系に分かれて自分の将来の仕事を決めていくわけだが、その前に、高校生のうちに、普通科の生徒に対してのキャリア教育を充実させて、「山口県にはこんな企業があるよ」といった県内の企業や産業についてしっかり伝えておくことができれば、とりあえず山口県を出たとしても、いずれ戻ってきたときに「山口のためになりたい」という心ができるのではないかと感じている。

もう一点は、県内ではなくて県外の高校、特に近隣の県の高校にアプローチして、山口県内の大学の魅力を伝えられるよう、予算事業でなくてもよいのだが、何かの方法で取り組んで、近隣他県の子どもたちも山口県に呼び込み、本県に定住してもらおうということも考えてよいのではないかと思う。

仕事との関連で、若者を地元に残していただきたいという考えである。

●村岡知事

ありがとうございました。

おっしゃるとおり、若者の県内定着を進めるためには、本当に小学生の頃からの取組として、コミュニティ・スクールやインターンシップ、キャリア教育の充実が効果的であると思うので、我々も教育委員会と十分連携をして充実を図って行ければと思うし、またお話のあった近隣の高校への働きかけについては、おっしゃるとおり山口に県外から来られる方も当然多くいらっしゃるだろうし、その中で近隣のところからの方も当然多いわけだから、そういった視点も必要かなと受け止めた。

●石本委員

私はまず、「新学習指導要領に対応した教育」について意見を申し上げる。

これからの新時代に向けて、英語教育やプログラミング、道徳教育など新しい教育へ今改革がなされているところと思う。新時代に対応できる子どもたちを育てるということで、とてもよい事業であると思う。

ただし、小学校で行われるこのような教育について、いくつかの小学校の卒業生で一つの中学校が構成されることが多いと思うのだが、小学校間での学校間格差が出ないように、指導方法などを小学校同士で連絡を取り合うなど、先生同士が交流しながら授業を進めていっ

てほしいと思っている。

これは他の教科についても言えることで、他校のよい指導方法を先生方も学びながら、よい教育をしていただきたいと思う。

それから、高校の基礎学力については、その前の段階の中学校での基盤がやはり重要になる。その元となるのが、やはり小学校の教育ということになる。家庭環境も大切であるとは思いますが、皆が平等に受けられる学校内での教育の中で、小学校の1年生から勉強とか、学びが好きな子どもたちを育てていけるといいなと思っている。

こういった子どもたちを育てられる指導力を持つ教員の養成が大切になるし、指導力の高い先生を低学年こそに配置していただきたいなと思っている。

授業が楽しい、勉強が好きだからもっとしたいという学生が増えることを望んでいる。

次に、いじめの未然防止や早期発見、早期対応についてだが、先生方が日々の業務に追われていっしょだと生徒と関わる時間が減ってしまい、子どもたちの変化に気が付く余裕が無くなる可能性もあると私は思っている。

そこで、「働き方改革」が大切になってくるのではないかと思っている。

カウンセリングなどの充実も、勿論大切なこととは思いますが、早期発見・早期対応に関して最も重要なことはやはり子どもたちを毎日見守っている担任の先生の力量だと私は思っている。

勉強を教えるということだけではなく、生徒を育むということが教師の醍醐味ではないかと思っているので、是非、働き方改革で、よりよい生活環境をつくっていただきたいと思っている。

また、大学とも連携して、教員をめざす学生への「いじめ」や「虐待」についての講義を充実させていただいて、将来的にそういった事例の対応に長けた学生を現場の方へ送り出していただけたらうれしく思う。

山口県の教育が素晴らしいので、是非ここで子どもを育てたいと思えるような教育体制を築いていただきたいと思っている。

●村岡知事

ありがとうございました。

新しい教育が導入され、今回もプログラミング教育の関係など予算も計上して取り組んでいくことになっているが、具体的にこれが、学校間で大きな差が出ないように、またレベルアップを図れるように、お互いに学びながら進めていくことがとても重要だと思うし、先生が生徒と関わり合う時間を確保するというので、働き方改革のお話もあった。

国全体でも、教員の勤務時間の長さというのは大きな課題として議論され、改善策などいろいろと検討されているところだが、我々もそういった議論をしっかりと受け止めながら、教育委員会の方のお考えを踏まえて、いろんな措置ができればと考えている。

●佐野委員

今回の施策の中で、高校についての施策が、個別だけではなくて広く、厚く充実している

予算案になっているように感じている。

生徒の減少が続いている中で、魅力ある学校づくりにおいて、県外を含めて地域間の競争が強まってくるのではないかと感じている。

学校だけでなく、地域や企業と連携する山口県のコミュニティ・スクールの特色あるところを活かしていただいて、学校として生徒の力を伸ばして、彼らの夢が実現できたり、それ以上の世界を見せてあげられる学校となってもらえればと思っている。

また、当たり前前を当たり前にする、基本がしっかりしていることで、より特色や力が際立つものではないかと思うので、これをしっかりと教育に繋げていっていただきたいと思っている。

それと、児童生徒の英語力の向上事業だが、英語交流支援員、小学校の専科教員の配置の拡大、英語教育の体制が整ってきたように感じる。

よい教材もたくさん使用されているようだが、視察などに行くと、せっかく良い機材であってもスピーカーが良くなって、せっかくの音声が教室で聞き取りにくいという場面もあったように感じている。多少聞き取りにくい方が実践的であるという話もあるのだろうが、機材の面でも改善が望まれるように感じている。

また、インクルーシブ教育システムの構築に向けた、通級による指導担当教員の配置についてだが、通級指導については、軽い障害や能力を補完するだけでなく、その子に自己肯定感をもってもらうことで、多様な子どもたちの個性を伸ばしたり、積極的に他者に働きかけを増やしていくとか、将来社会で活躍したり、社会で困らないための自発的な行動への後押しになる、そういう有効なものではないかと感じている。

今後、小中学校だけでなく、高校にも拡大されるということなので、効果的な働きになっていただければと感じている。

それと、「いじめ・不登校等対策強化事業」「思春期グロウイングハートプロジェクト事業」についてだが、今回の予算案により、これまでになく充実した内容を予定されているようなので、実効性のある取組になってほしいと感じている。また、組織的な動きとして、学校間で対応に相違や差が出ないように、底上げを図っていただければと思っている。

外部専門家の配置や指導マニュアルの作成といった組織体制の強化が図られるということなので、こちらも期待している。

安心して子どもを育てられる環境は、その地域に住む人々にとって重要な要素であると思うので、大変難しい取組であると思うが、しっかり対応していただければと思っている。

この先、実効性のある、再発防止と、何をすべきか、何をしてはいけないのかという本質の部分のしっかりと子どもたちに伝えて、考えてもらうような教育や指導になるとよいと感じている。

今回の全体の感想だが、これまで教育委員の活動の中で、課題となっているなど感じていたところ、こうなしてほしいと思っていたところに、かなり予算が付いている案であると感じている。組織的な動きのもと、効果的に教育の現場で実施され、検証されることで、結果とかエビデンスというものに結びついていくようにしていただければと考えている。

●村岡知事

ありがとうございました。

地域間の競争が激しくなるということで、コミュニティ・スクール等の特色ある取組を活かしていくべきだというお話で、私もおっしゃるとおりと思う。

これを山口県の教育の優れた点として更に伸ばしていただければと思っているし、これまでも佐野委員さんの問題意識のあったところに予算が計上されているというお話があったが、是非、お話があったように、よりこれを充実させていく、英語教育やインクルーシブ教育、またいじめ対策等、実効性のある取組にしていくことが、おっしゃるとおり重要であると考えている。是非、教育委員会の方で実効ある取組としていただきたいと思うし、我々も予算面でしっかりとサポートできればと考えている。

●小崎委員

「地域教育力日本一推進事業」についてお話させていただく。

コミュニティ・スクールの導入が100%となったということで、地域・学校・保護者・行政・子どもを中心にコミュニティ・スクールは動いているが、以前は、保護者の意識がまだまだコミュニティ・スクールの方に向かっていないのではないかと感じていた。

最近、私に関わるところに関しては、保護者の方たちも、地域協育ネットであるとかコミュニティ・スクールに関して、以前と比べてだいぶ協力的であったり、理解を示して下さる方が増えてきたと感じているのだが、最近特に感じているのが、先生方の意識が、多くではないが、コミュニティ・スクールにどれだけ理解を示していらっしゃるのかなと疑問に思うことがある。

今の時期、各学校で「学校評価書」が出るが、それを我々学校運営協議会の委員も見せていただく。そこでの教員のコメントで「コミュニティ・スクールになったことで仕事の量が増えた」とか、「時間がなかなか取れない」といった意見が出ている。なので、先生方も、コミュニティ・スクールがどれだけの意義をもつのか、コミュニティ・スクールで育ててきた子どもたちがどのように変わっていくのか、夢や志をもっていくのか、もっと身近に感じるべきではないかと感じている。

昨年11月に萩で開催された「やまぐち地域連携教育推進フォーラム」に私も出席させていただいたが、そこで山口大学の1年生が、どのように自らが地域で育ててきたか、どのように思っていたかなど、事例発表を行っていた。

彼らは小学校のころからコミュニティ・スクールで育ててきており、彼らの発表する姿を見ると、我々の取り組んできたことは間違いではなかったし、将来に希望をもたせてもらえるような事例発表で、ほとんどの子どもたちが「山口に残って教員になりたい」「小学校の先生になりたい」「自分も、子どもたちに、志をもてるような教育をしてみたい」と発表していた。

この発表の場は、先生方がこれを聞かれても、こういうところにコミュニティ・スクールのよい影響が出てくるということを感じられる機会であったと思う。残念なことにこの会が平日に開催されたこともあって、多くの先生方の出席が難しかったのではないかと

うが、たくさんの先生方に聞いていただくとよいと思うので、このような機会を充実させて
いただきたいと思います。

子どもたちに関しても、自分たちの取組を発表できるような活躍の場を、大人たちがしっ
かりつくってあげることも大切ではないかと思う。

昨年11月17日に、山口県教育会館で開催された「やまぐち教育の日山口大会」にも参
加させていただいたが、そこで知事が講演をされ、「新たな県づくりに向けて」として「や
まぐち維新プラン」の説明をなさっていた。

「やまぐち維新プラン」については、それまでは紙面でしか見ておらず、内容に実感があ
まりもてなかったのだが、知事の生の声による御説明を聞くことができたので、自分の身近
なものとして捉えることができた。とても楽しそうにお話されており、聞いていてワクワク
するようなどころもあったし、そういう知事の生の声を、我々一市民でも聴ける機会がもっ
と増えるとよいなと思った。知事が妊婦体験をされているビデオなども初めて拝見したが、
見ていてとても幸せな気分になった。動画だけではなくて多くの人が直接見たり、聞いたり
する場面が増えるとよいと思う。山口の明るい未来が待っているような気がする。

●村岡知事

ありがとうございました。

いろんな場面でPRをしっかりとさせていただきたいと思う。

コミュニティ・スクールのお話は、先ほど佐野委員さんからもあったが、大変すばらしい
取組だし、是非成果をますますあげていただきたいなと私も大変期待をしている。その一方
で、やはりいろいろな事務的な負担など生じるころはあると思うので、できるだけそれが
軽減できるようにいろんな工夫もしなければならぬと思う。

そういった工夫とともに、おっしゃるように成果を、先生方もそうだし、地域の方、子
どもたちにわかりやすく伝えるということがとても重要であると思う。

成果があるという心の大きさを感じることで、次にまた頑張っていこうと、重要なことな
ので頑張っていこうということに繋がっていくと思うので、そこをわかりやすく、皆さんに
認識しやすくしていく工夫がいるのかなという気がする。大学生の発表のお話はとてもすば
らしいなと思ったし、そういったことも含めてよい循環ができるように、組み立てていただ
けるとよいのではと感じた。

●浅原教育長

まず始めに、平成31年度の予算編成に当たり、大変厳しい財政状況の中で、子どもたち
の教育の充実のために、必要な予算を確保していただいた。知事さんには改めてお礼を申し
上げたいと思う。ありがとうございます。

それで、数点ほど、包括的に、全体的なお話を少しさせていただきたいと思うが、まず県
教委では、新たな「教育振興基本計画」を作り、目標の「未来を拓く たくましい『やまぐ
ちっ子』の育成」、これに向けた取組を本格的に展開していきたいと考えている。

中でも、先ほどからお話のあった、全市町立の小・中学校にコミュニティ・スクールを導

入済みである。そういう基盤を生かした地域連携教育の更なる充実ということで、「地域教育力日本一」をめざす取組の推進とか、あるいは高等学校が地域と連携・協働して、生きた課題をテーマとした課題解決型の探究活動を行うことによって、地方創生にも寄与するような、地域を支える人材の育成、こういったものにしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

それから、「魅力ある学校づくり」ということだが、先ほどもちよっとお話があったが、県内の高校生が学校の枠を越えて一堂に会しての課題発見・課題解決型の学習の実施や、テレビ会議システムを活用した、発展的な知識を学ぶ講義等の実施など、学校や学年にとらわれない多様な学びの提供により、生徒が主体的に生きていく力を育成する、そして本県高校教育の更なる魅力向上を図っていききたいと思っている。

なお、この4月には、昼間部、夜間部の2部制の定時制高校である「県立下関双葉高等学校」を、32年ぶりの新設高校として、開校する。さらに来年度には、県央部に、午前部、午後部、夜間部を併せ持つ3部制の多部制定時制高校の設置に向けた設計、工事を進めることとしており、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒の多様な学びのニーズに応える、魅力ある学校づくりを進めていききたいと考えている。

それから最後だが、本日の最初の議事とも重複するが、いじめ等の根絶に向けた取組である。これを全力を挙げて取り組んでいきたいと考えている。

具体的には、説明もあったが、生徒のいじめや不登校などの悩みやSOSを受け止めていく、SNSを活用した相談体制の構築であるとか、弁護士によるいじめ予防教育の推進、心の専門家であるスクールカウンセラーによる心理教育プログラムの実施、こういったこともしっかりと行っていききたいと考えている。

改めて申し上げるまでもなく、いじめは絶対にあってはならないことである。県教委として、いじめの防止や早期発見、相談支援体制の充実にとしっかりと取り組んでいく決意であるので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っている。

●村岡知事

ありがとうございます。

今の教育の課題に対応した様々な施策を今回の予算に計上している。是非実効ある取組をお願いしたいと思う。

また、いじめの関係も、冒頭に触れたとおり、未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいただき、こうした事案が二度と起こることがないように、是非ともしっかりと対応を、改めてよろしくお願ひをしたいと思う。

(3)その他

●村岡知事

本日は、貴重な御意見、御提言をいただき、誠にありがとうございました。

私としては、本日の御意見も踏まえながら、子供たちの誰もが安心して学べる環境の実現に向けて、教育委員会と一丸となって取組を引き続き進めていききたいと思っている。

さて、このたび、私は、第10期中央教育審議会の委員に就任することとなった。

これまでも、中央教育審議会の教育振興基本計画部会の臨時委員として、「やまぐち型地域連携教育」の取組等を紹介して、学校と家庭・地域との連携・協働の重要性等について提言するなど、国の第3期計画の策定に携わってきた。

今後は、本体の審議会委員として、教育制度や生涯学習の推進など、さらに多岐に渡る分野について、意見を述べていくこととなる。

私としては、委員の重責を果たすことができるよう、しっかりと努めていきたいと考えているので、委員の皆様方のなご一層の御協力をお願い申し上げて、本日のまとめの御挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

6 閉 会